

## pMAIRS法：非平滑・非晶質薄膜の 分子配向を明らかにできる新手法

pMAIRS: A cutting-edge technique revealing the molecular orientation even in an amorphous thin film having a surface roughness

開催日時：3月17日（土）13：00～17：00

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス

長谷川健（京大化研） pMAIRS法による有機薄膜の  
官能基単位での構造解析

長尾祐樹（北陸先端大） pMAIRSを用いた燃料電池  
電極界面の高プロトン伝導性高分子の研究

安藤慎治（東工大） 温度可変pMAIRS法を用いた  
ポリイミド膜の分子鎖配向挙動の解析

永井さえ（SONY） 配向制御した有機半導体薄膜の  
pMAIRS評価

若宮淳志（京大化研） 高効率ペロブスカイト太陽電池  
のための有機半導体の分子配向制御

柳田剛（九大先導研） 単結晶酸化物ナノワイヤ表面に  
おける揮発性分子群のpMAIRS測定

実用的な有機薄膜は、スピンコート膜など表面粗さのある場合が多く、既存の光学的手法で官能基単位での分子配向解析は難しい。p偏光多角入射分解分光（pMAIRS）法は、こうした要望を実現する最新の表面分析手法である。すでに利用されている研究者の方を中心に現状を広く伝え、疑問にも十分にこたえる機会としたい。